



イベント
フォトギャラリー

わったー まちの話題



美味しい食事をとりながら、生き生きとしたシニアライフについて
仲間と共に長寿の秘けつを学んでみませんか？

令和4年度 楽しい健康長寿セミナー

先着
30名様

対象者: 西原町在住 65歳以上で健康づくりに関心のある方
日時: 令和4年9月22日(木) 10時30分～15時10分
 (受付: 午前10時)
場所: エリスリーナ西原ヒルズガーデン(アラマンダ)
内容: 健康づくりについての座学や実技を学ぶ
 ☆栄養について「楽しく、賢く、役に立つ食生活のすすめ」
 ①「お食事タイム(西原町の特産品の一部を使ったメニューです)」
 ☆健康について「笑って元気!心豊かに、健やかに!」

☆運動について
 講話「生涯健康で元気いっぴいの身体づくり」
 実技「椅子に座ったまま、認知症予防体操;他」
参加費: 1,000円(税込み)
募集期間: 令和4年8月15日(月)～8月26日(金)
申し込み先: 西原町役場 福祉課 介護支援係
 (窓口へお越し下さい)
 ※定員に達し次第、締め切ります

【お問い合わせ】福祉課 介護支援係 ☎098-945-4791

沖縄県本土復帰 50周年記念事業

沖縄県の本土復帰50周年を記念し、西原町では、写真資料展や平和の語り部の映像を保存する活動を行いました。

5/13～6/20

■本土復帰50周年記念事業写真展
(西原町役場町民ギャラリー)



6/22

■「月桃」歌碑建立
(西原町運動公園 夕日の広場)



■平和の語り部 映像保存・活用
(玉那覇香代子さんの戦争体験談を映像として残し、「平和の約束2022」で公開しました)

■小波津「弾痕の残る石塀」案内版設置予定

6月 西原町平和月間

西原町では6月を「西原町平和月間」と定めています。今年は3年ぶりの平和音楽イベントや平和資料展などの平和事業を開催しました。

企画展示

6/1～6/30

■西原町平和資料展(町民広場)

6/1～6/30

■西原町の戦争の記憶関連

文化遺産群展示

(西原町中央公民館)

6/14～7/3

■西原の戦後復興展

(西原町立図書館)

平和音楽イベント

6/23

■「平和の約束2022」(さわふじ未来ホール)

「平和の約束2022」の動画はこちら



平和資料展を見学する坂田幼稚園児たち

7月1日(金)

町産品・町内企業で西原町を盛り上げよう!

毎年7月は県産品奨励月間です。今年は西原町商工会(下地浩之会長)と西原町観光まちづくり協会(近藤哲司会長)より町産品の優先使用と町内企業への優先発注を崎原盛秀西原町長と大城好弘西原町議会議長へ要請がありました。



崎原町長は「町内企業がしっかり働ける環境を行政がバックアップし、魅力あるまちづくりのため、町と企業が協力して頑張っていきたい」とあいさつしました。

7月8日(金)

世界へ羽ばたけ 西原高校マーチングバンド 企業が応援

4年に1度オランダで開催される「世界音楽コンクール」に西原高校マーチングバンドが日本代表として出場します。世界大会での活躍を願い、南石油(株)村上統代表取締役社長(後列中央)より100万円が西原高校マーチングバンドへ寄付されました。部長の屋良和佳菜さんは「世界一をとって沖縄の人たちを元気にしたいです」と意気込みを語りました。



また、その他にも多くの町内外の企業から多額の寄付が寄せられました。

7月13日(水)

凄いぞ! バレーっ子大活躍!



第42回全日本バレーボール小学生大会沖縄県大会において、西原クラブ男子と西原南クラブ男女が優秀な成績を収めました。5年ぶり24回目の優勝に輝いた西原クラブのキャプテン池辺泰河さんは「県代表として全国でも優勝目指して頑張ります」と笑顔で抱負を述べました。

優勝	西原クラブ(男子)	全日本バレーボール小学生大会(東京)へ出場
第3位	西原南クラブ(男子)	全九州小学生バレーボール男女優勝大会(熊本)へ出場
ベスト8	西原南クラブ(女子)	ドリームカップジュニアオールスター佐賀大会(佐賀)へ出場



獅子舞

西原町の獅子舞は旧暦七月から八月にかけての旧盆や八月十五夜などに行われ、悪霊を払い、世界報(ユガフ)を祈願する神事です。町内では幸地、翁長、小橋川、内間、小那覇、我謝、桃原、小波津の八カ字で傳承されています。

町内の村遊びは「獅子の慰勞(ウトウイムチ)」という傳承が残っており、幸地では最初の演目「長者の大王」で、獅子ヌウトウイムチサビラと口上を読み上げ村遊びが始まるそうです。

古くから伝わるシーシ(演舞用獅子)は沖繩戦(昭和二十年)で焼失し、戦後新たにシーシを仕立て、獅子舞の伝統行事が行われるようになりました。戦後の獅子頭づくりは、町内八カ字のうち五カ字が宇小波津の小波津正雄氏によって仕立てられており、同氏は町外の多くの獅子頭も仕立てていることからシーシづくりの名工であるといわれています。

獅子舞は地域の守護神として悪霊を払い、相方を思いやる気持ちは必要とされています。

幸地の獅子舞は空手の型を基礎にした「獅子型(シシヌカタ)」で、昔、高門小(タカジョウグワ)の男が辻町で暴漢に闘いをいどまれた時に、獅子舞の技である「脚割(アシワイ)」と「顎シリ(ウトウグーシリ)」の実

演をしたところ、暴漢は驚いて退散したとのこと。獅子舞の演舞者は、「シーシンジュ」、「シーシガシラ」、「シーシンカ」などと呼ばれ、以前、翁長では、入ったら一生抜けることは許されないものとされ、難儀なものとしてなかなか入る者がなく、力のある者や強制的に加えたと言われています。小波津では、演舞の過酷さから獅子舞役員の手当が支給され、地域の清掃作業も免除されていたそうです。獅子舞は二人一組で、前者が前足で両手で獅子頭を持ち、頭の鼻の孔からワクヤ(脇役)や周りの状況を見てミージチ(目で周囲を威嚇)をしたり、棒や鞆(マリー)をくわえるしぐさをし、後者が後ろ足で、中腰の状態での腰帯を握り、尻尾を動かしたり、前者を持ち上げて二足歩行するなど、筋力と持久力が求められます。さらに、お互いの動きを理解し、それぞれの役割を果たしながら一頭の獅子を演じるため、相方を思いやる気持ちは必要とされています。



現在、町内のほとんどの演舞者は、五十代から六十代が主で、体力的に演舞が難しく「獅子の御願」だけを行っているところがほとんどであり、芸能の継承が課題となっています。そのため、近年、後継者の育成を図るため、「子ども獅子」を製作して子どもの頃から獅子舞に興味を持ってもらう取り組みが、小那覇、我謝、小波津で行われています。



子ども獅子の製作

獅子舞という伝統芸能は、地域の宝であり、演舞者は、過酷な演舞に対応できる体力と思いやりを兼ねているだけでなく、自分が家族や地域を守っているという誇りを持っており、地域のヒーロー的存在といえます。コロナ禍を吹き飛ばし、穏やかな日常を迎えられるよう、地域の伝統芸能に対して若い世代の奮起と参加を期待しています。

- ※1 世界報・豊作・健康・子孫繁栄など。
- ※2 村遊び・旧暦八月十五夜の村芝居など。

お問い合わせ文化課文化財係 ☎944-14998